

関西広域連合発足6ヶ月を迎えて

関西広域連合が昨年12月1日に複数府県による全国初の広域連合として発足以来、6ヶ月が経過しました。3月11日に発生した東日本大震災に対しては、ただちに広域連合委員会を開催し、全国に先駆け、カウンターパート方式による被災地支援の行動をはじめました。被災地が直面する多くの課題に対し、今後とも関西からの支援を強化していきます。

さらに、今年度は、防災、観光・文化、産業、医療、環境など分野ごとの広域計画策定に向けた議論を深め、本格活動への早期移行をめざすとともに、正念場を迎える国出先機関改革において、出先機関の原則廃止と権限移譲の実現をめざします。

今後とも、地方分権の突破口を開き、わが国を多極分散型構造へと転換することをめざし、関係府県が一致団結して、関西から積極的な行動を展開します。

平成23年5月31日

関西広域連合長

井戸 敏三

(兵庫県知事)